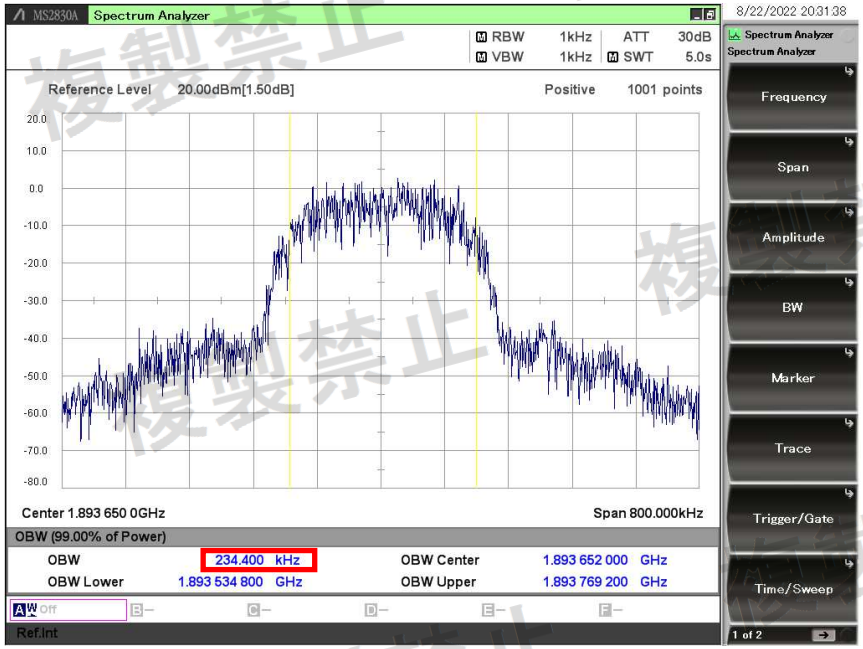
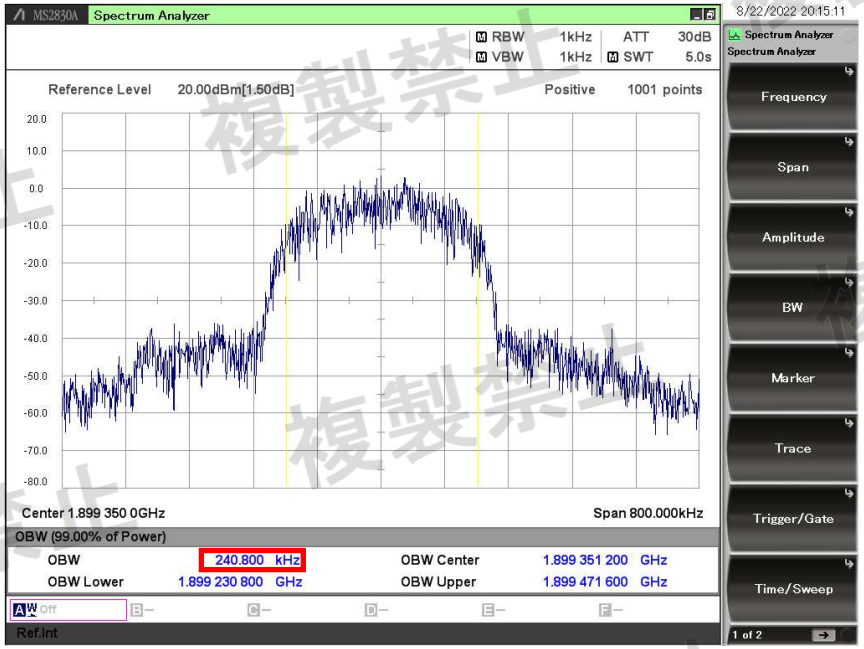
測定波形(常圧 3.7V)

①占有周波数帯幅

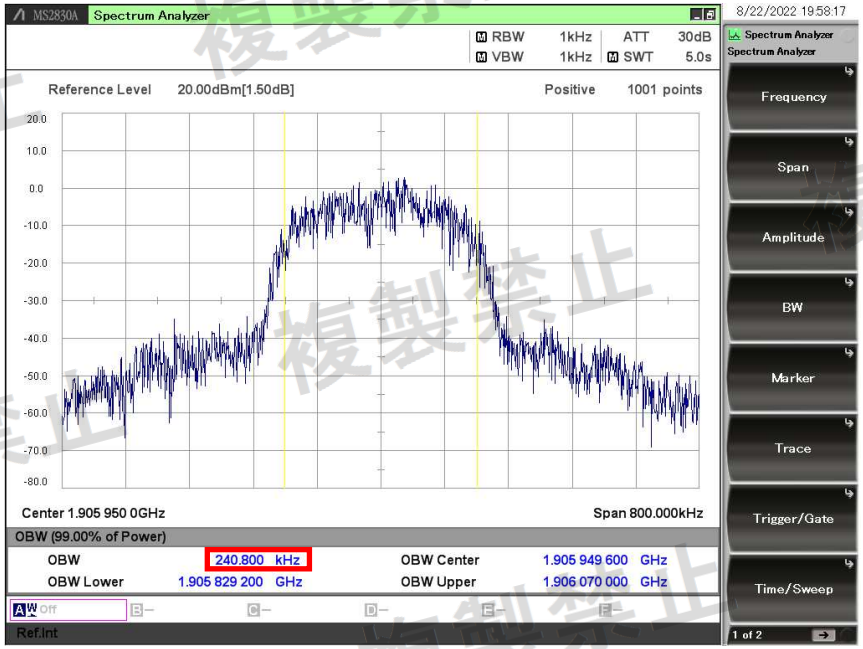
試験周波数：1893.65 MHz(Lch)



試験周波数：1899.35 MHz(Mch)



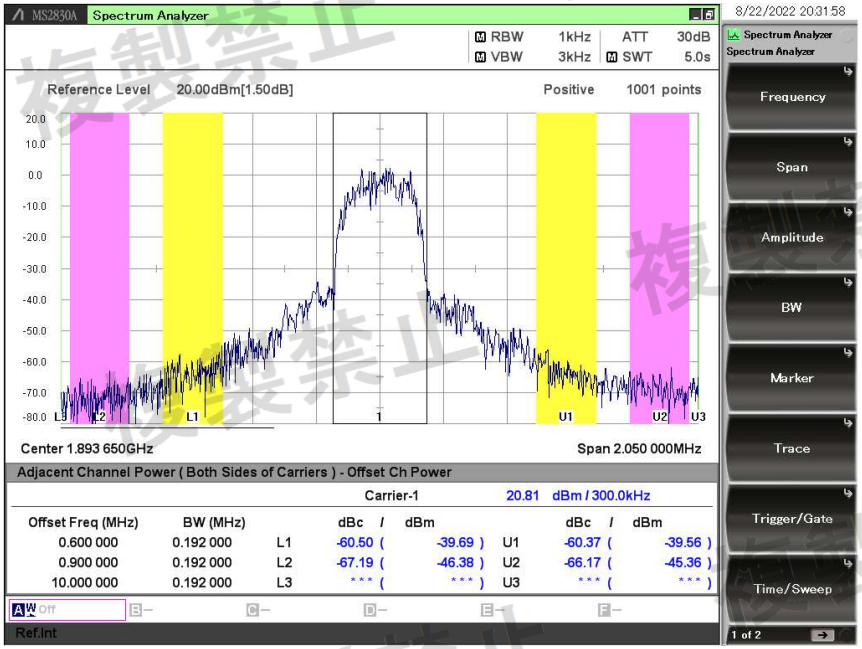
試験周波数：1905.95 MHz(Hch)



測定波形(常圧 3.7V)

②隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力

試験周波数：1893.65 MHz(Lch)



掃引周波数幅 300kHz でのｷｬﾘｱの電力が 20.81dBm の為、
各隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比は以下となる。

-600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.81dBm- (-39.69dBm) = 60.50dBc
+600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.81dBm- (-39.56dBm) = 60.37dBc
-900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.81dBm- (-46.38dBm) = 67.19dBc
+900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.81dBm- (-45.36dBm) = 66.17dBc

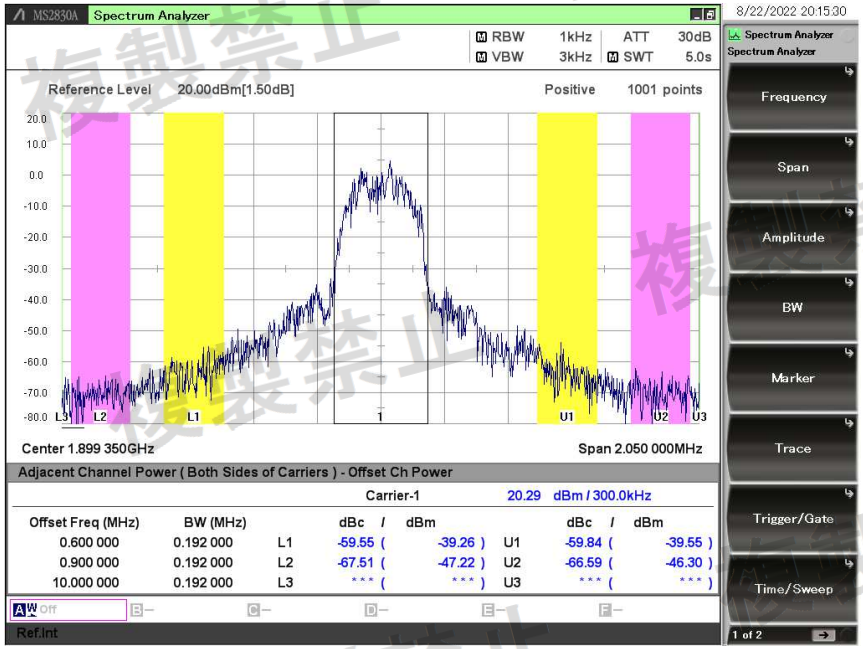
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
-600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.77dBm(=9.48mW)+9dB -60.50dBc = -41.73dBm = 67.14nW
+600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.77dBm(=9.48mW)+9dB -60.37dBc = -41.60dBm = 69.18nW
-900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.77dBm(=9.48mW)+9dB -67.19dBc = -48.42dBm = 14.39nW
+900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.77dBm(=9.48mW)+9dB -66.17dBc = -47.40dBm = 18.20nW

よって、±600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力は **69.18nW**(MAX)、
　　±900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力は **18.20nW**(MAX)

測定波形(常圧 3.7V)

②隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力

試験周波数：1899.35 MHz(Mch)



掃引周波数幅 300kHz でのｷｬﾘｱの電力が 20.29dBm の為、
各隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比は以下となる。

-600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.29dBm-(-39.26dBm) = 59.55dBc
+600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.29dBm-(-39.55dBm) = 59.84dBc
-900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.29dBm-(-47.22dBm) = 67.51dBc
+900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：20.29dBm-(-46.30dBm) = 66.59dBc

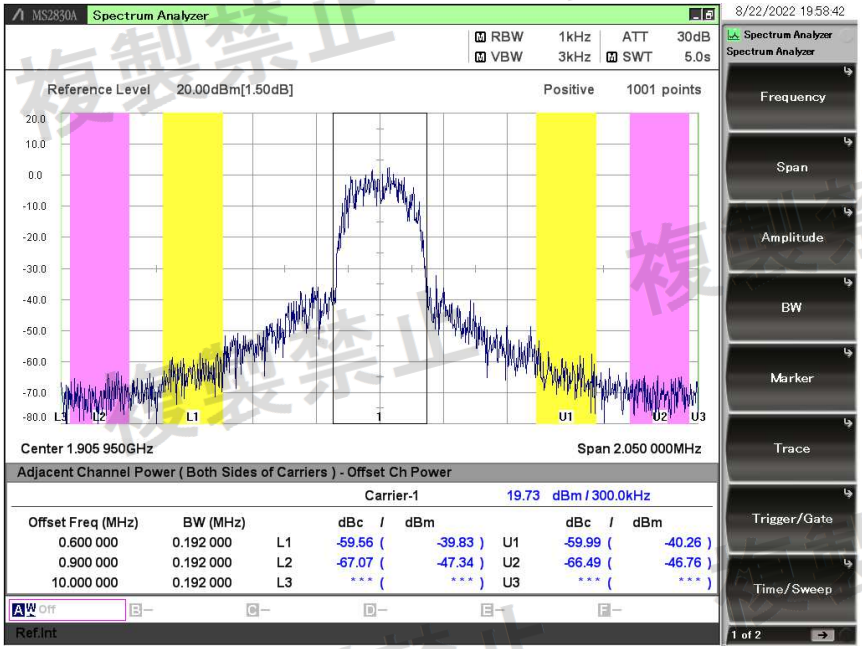
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
-600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.90dBm(=9.77mW)+9dB-59.55dBc = -40.65dBm = 86.10nW
+600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.90dBm(=9.77mW)+9dB-59.84dBc = -40.94dBm = 80.54nW
-900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.90dBm(=9.77mW)+9dB-67.51dBc = -48.61dBm = 13.77nW
+900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.90dBm(=9.77mW)+9dB-66.59dBc = -47.69dBm = 17.02nW

よって、±600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力は **86.10nW**(MAX)、
　　±900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力は **17.02nW**(MAX)

測定波形(常圧 3.7V)

②隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力

試験周波数：1905.95 MHz(Hch)



掃引周波数幅 300kHz でのｷｬﾘｱの電力が 19.73dBm の為、
各隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比は以下となる。

-600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：19.73dBm-(-39.83dBm) = 59.56dBc
+600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：19.73dBm-(-40.26dBm) = 59.99dBc
-900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：19.73dBm-(-47.34dBm) = 67.07dBc
+900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比　　：19.73dBm-(-46.76dBm) = 66.49dBc

予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
-600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.93dBm(=9.84mW)+9dB-59.56dBc = -40.63dBm = 86.50nW
+600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.93dBm(=9.84mW)+9dB-59.99dBc = -41.06dBm = 78.34nW
-900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.93dBm(=9.84mW)+9dB-67.07dBc = -48.14dBm = 15.35nW
+900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力　：9.93dBm(=9.84mW)+9dB-66.49dBc = -47.56dBm = 17.54nW

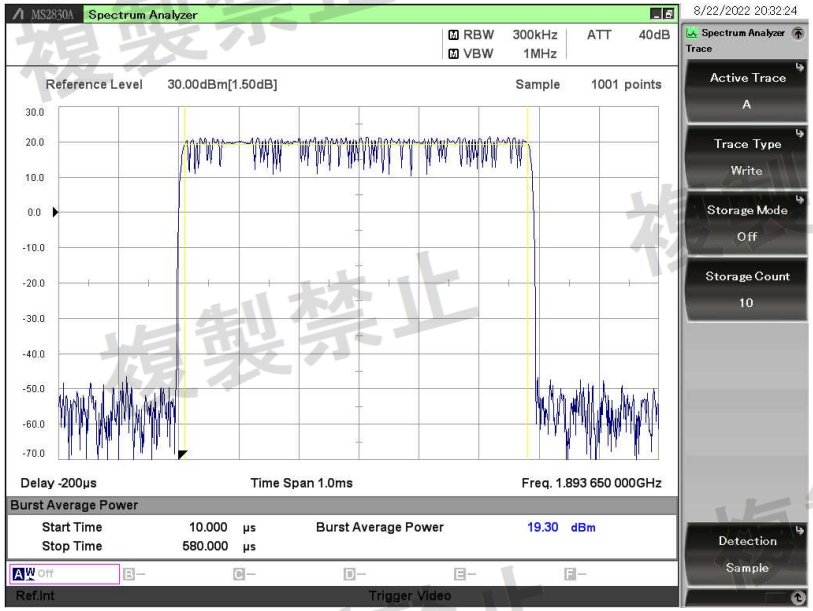
よって、±600kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力は **86.50nW**(MAX)、
　　±900kHz 離調の隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力は **17.54nW**(MAX)

測定波形(常圧 3.7V)

③ｽﾌﾟﾘｱｽ発射又は不要発射の強度

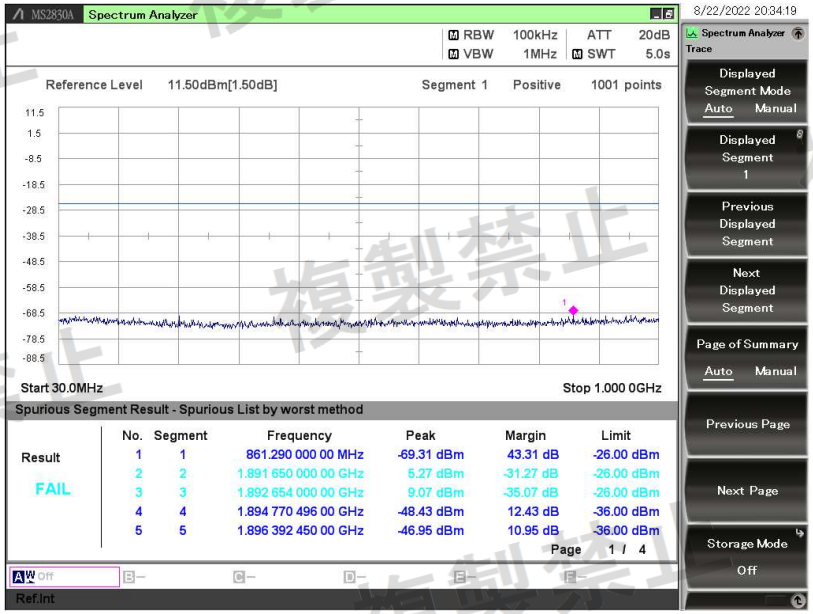
試験周波数：1893.65 MHz(Lch)

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)

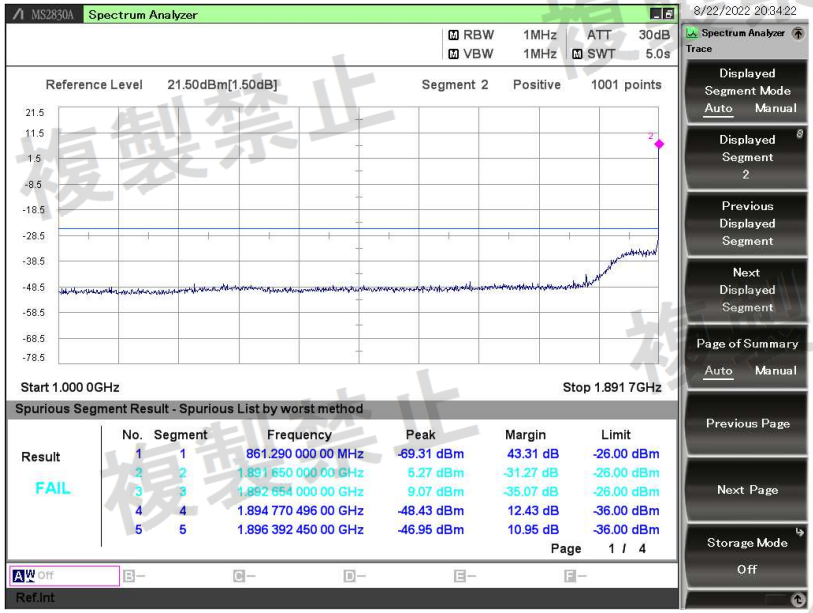


・不要発射の探索結果

<不要発射 Segment1：30.0MHz～1.000GHz>

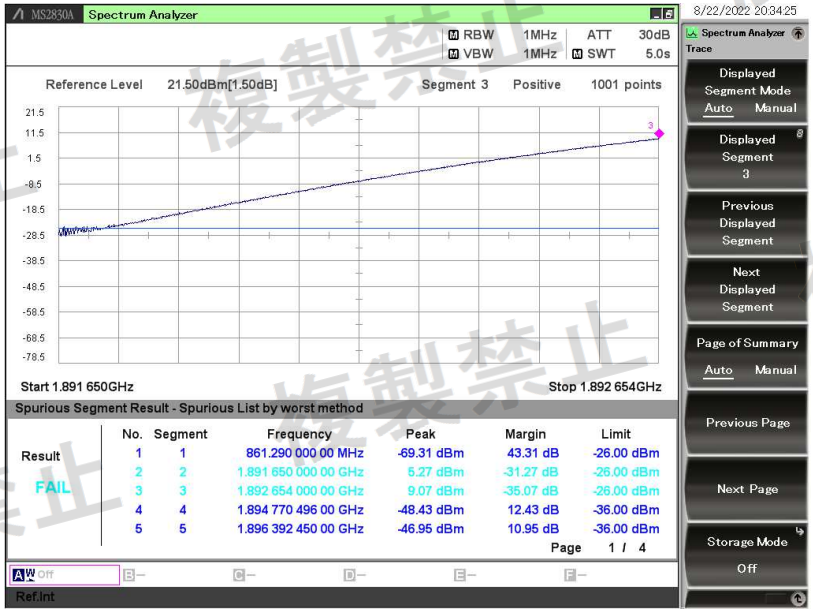


<不要発射 Segment2：1.000 00GHz～1.891 65GHz>

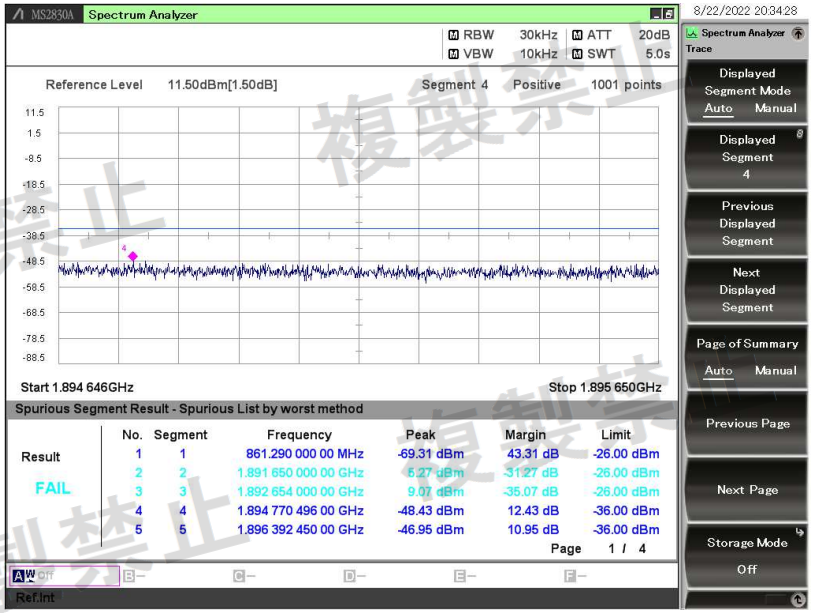


※Segment2 のｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの捜索範囲表示が 1.000 00GHz～1.891 7GHz となっているが、これはｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの仕様であり、実際は捜索範囲を 1.000 00GHz～1.891 65GHz に設定して測定している。

<不要発射 Segment3：1.891 650GHz～1.892 654GHz>

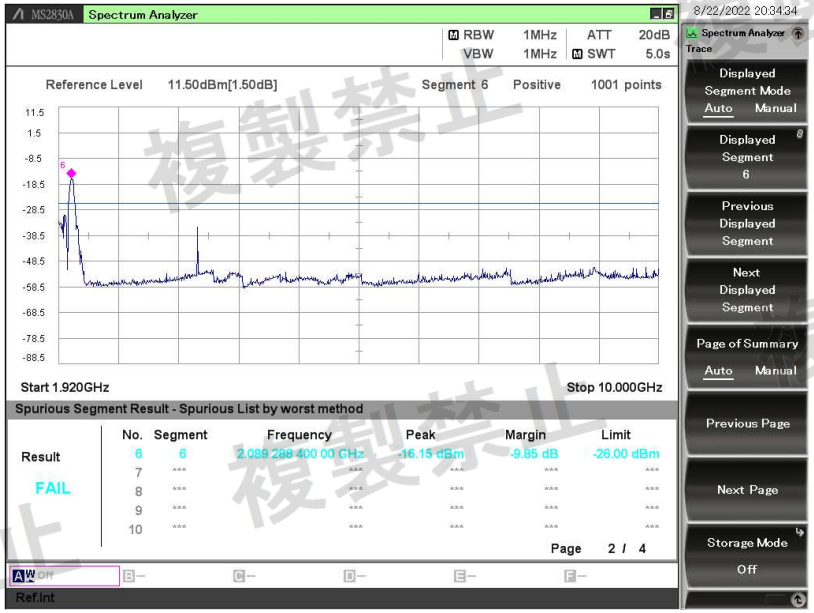


<不要発射 Segment4：1.894 646GHz～1.895 650GHz>



<不要発射 Segment5：1.895 65GHz～1.919 60GHz >

<不要発射 Segment6：1.919 60GHz～10.000GHz>



※Segment6 のｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの捜索範囲表示が 1.920GHz～10.000GHz となっているが、
これはｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの仕様であり、実際は捜索範囲を 1.919 60GHz～10.000GHz に設定して測定している。

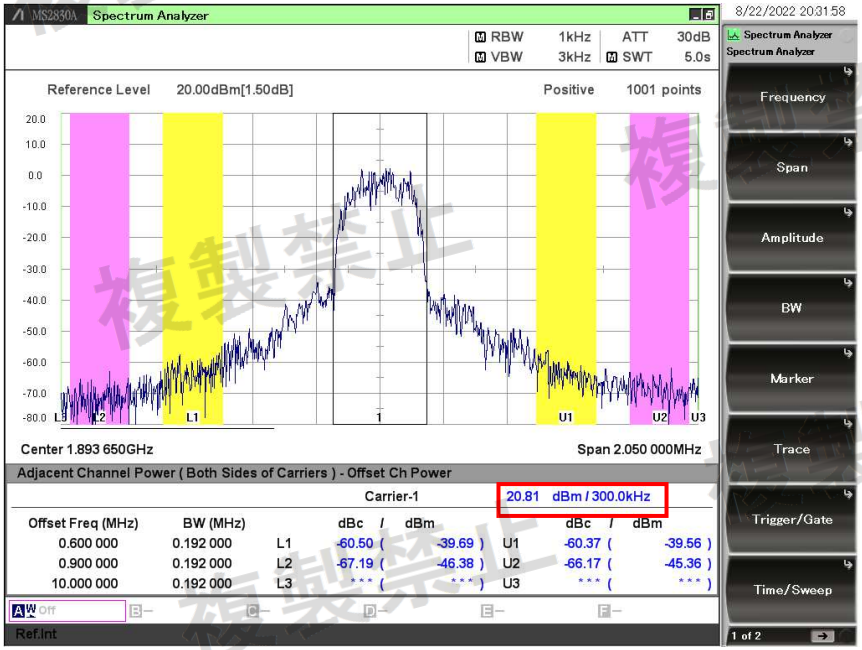
※探索結果の Result が FAIL 表示となっているが、これは探索結果が技術基準の許容値を超えているかの Result であり、
探索結果で許容値を超えた領域に関しては、特性試験方法に従った詳細測定を行っている。
・不要発射 Segment2：狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の(A)を参照
・不要発射 Segment3：狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の(B)を参照
・不要発射 Segment3：狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の(C)を参照
いずれも技術基準の許容値を満足している為、問題なし。

<狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内>

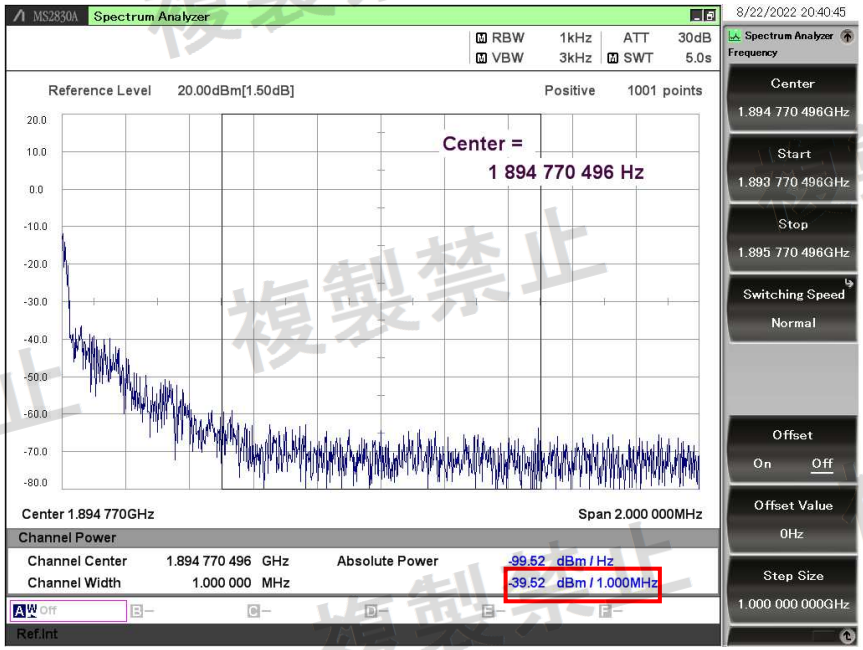
(A)Segment 4

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の搬送波+996kHz を除く、搬送波+2MHz で探索した不要発射が-48.43dBm@1894.770MHz であり(Segment 4)、
規格+15dB 以上のﾏｰｼﾞﾝを持たない為、詳細測定(隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、20.81dBm-(-39.52dBm)=60.33dBc
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
9.77dBm(=9.48mW)+9dB-60.33dBc = -41.56dBm = 69.82nW

(B)Segment 5

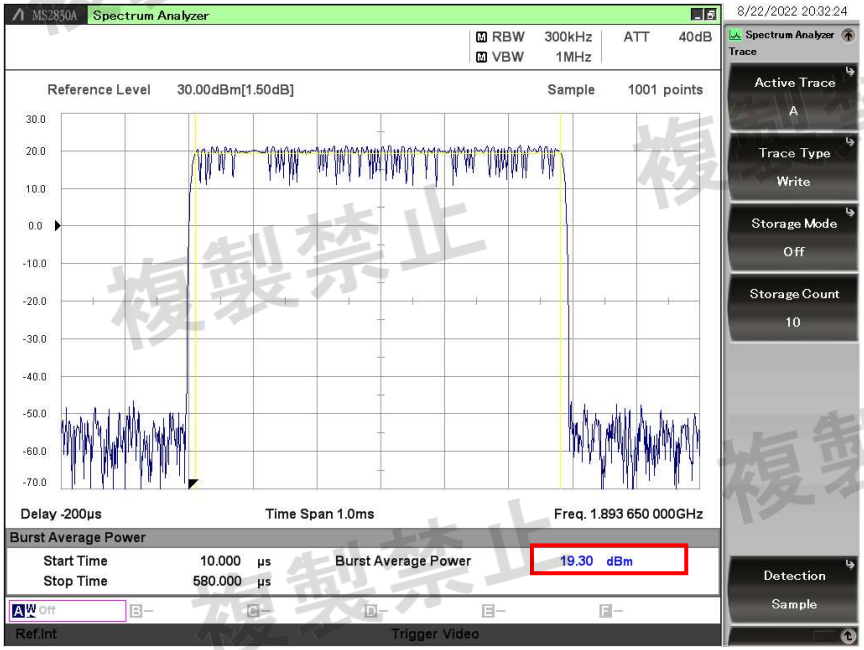
搬送波+2MHz を除く、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内で探索した不要発射が、＋側で-46.95dBm@1896.392MHz (Segment 5)であり、
規格+10dB 以上のﾏｰｼﾞﾝがある為、捜索結果に+10dB して測定結果とする。
-46.95dBm+10dB=-36.95dBm=201.84nW

<狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外>

(A) Segment2

1GHz 以下および搬送波-2MHz を除く、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外で探索した不要発射が、-側で 5.27dBm@1891.650MHz (Segment 2)であり、探索結果が規格値を超える為、詳細測定(ｾﾞﾛｽﾊﾟﾝ)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)



・不要発射(掃引周波数幅：0Hz)

よって、搬送波(掃引周波数幅：0Hz)と不要発射の電力比は、19.30dBm-(-32.44dBm)=51.74dBc

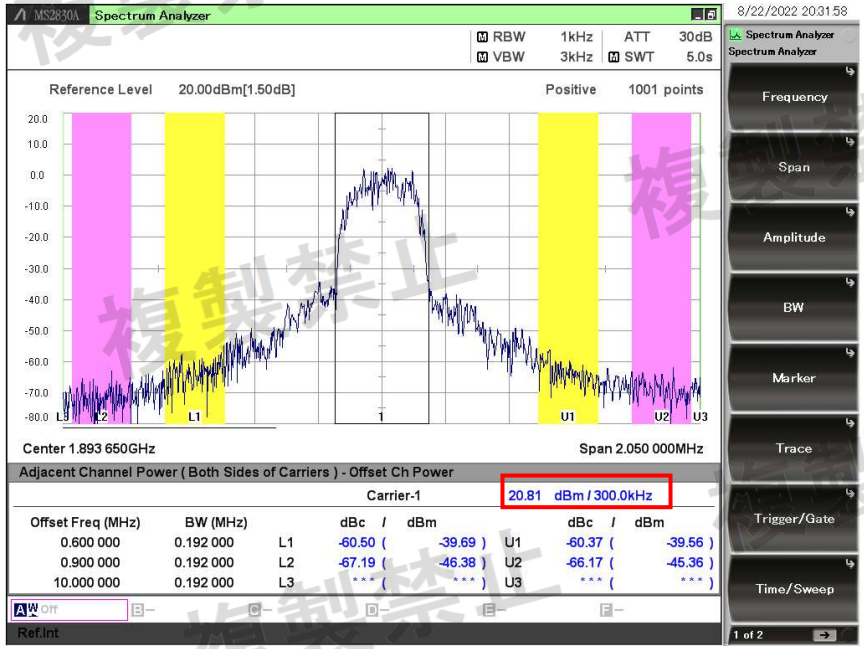
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

9.77dBm(=9.48mW)+9dB-51.74dBc = -32.97dBm = 504.66nW

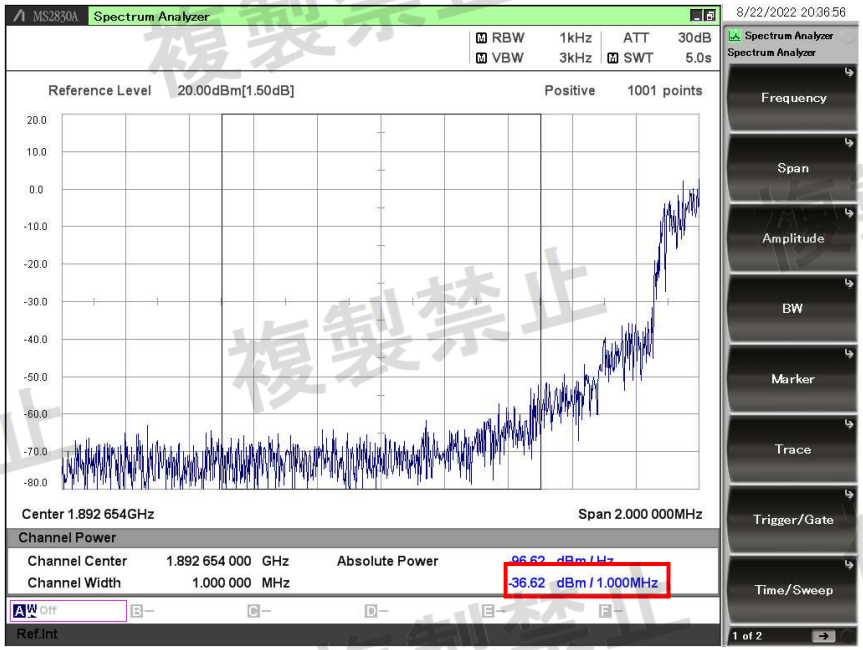
(B) Segment3

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の搬送波-996kHz を除く、搬送波-2MHz で探索した不要発射が 9.07dBm@1892.654MHz であり(Segment 3)、規格+15dB 以上のﾏｰｼﾞﾝを持たない為、詳細測定(隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、20.81dBm-(-36.62dBm)=57.43dBc

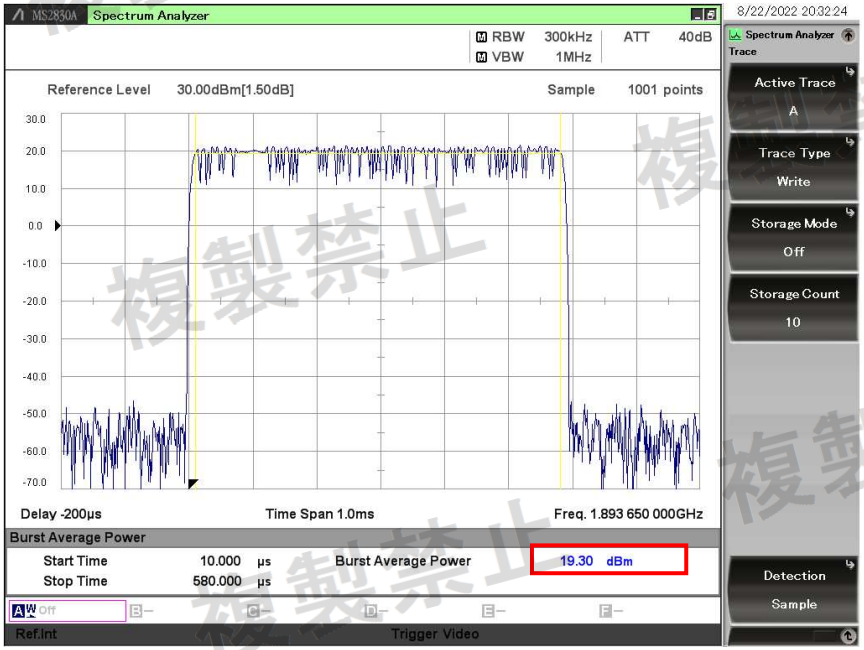
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

9.77dBm(=9.48mW)+9dB-57.43dBc = -38.66dBm = 136.14nW

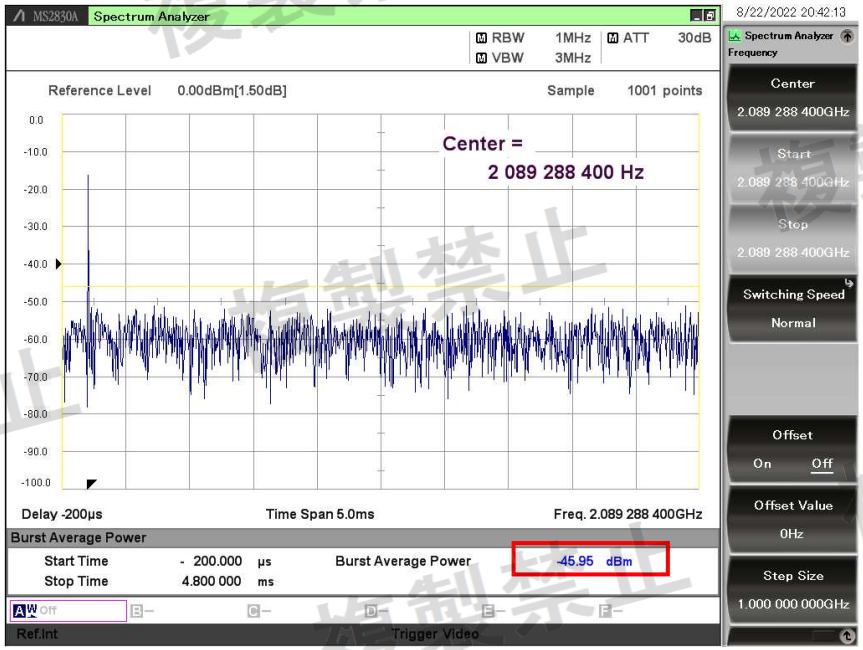
(C) Segment6

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の 1919.6MHz を超え 10GHz 以下で探索した不要発射が-16.15dBm@2089.288MHz であり(Segment6)、
探索結果が規格値を超える為、詳細測定(ｾﾞﾛｽﾊﾟﾝ)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)



・不要発射(掃引周波数幅：0Hz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：0Hz)と不要発射の電力比は、19.30dBm-(-45.95dBm)=65.25dBc
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
9.77dBm(=9.48mW)+9dB-65.25dBc = -46.48dBm = 22.49nW

(D) Segment1

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の 30MHz を超え 1000MHz 以下で探索した不要発射が-69.31dBm@861.290MHz であり(Segment1)、
捜索結果が規格値以内の為、捜索結果を測定結果とする。
-69.31Bm=0.12nW

●結論

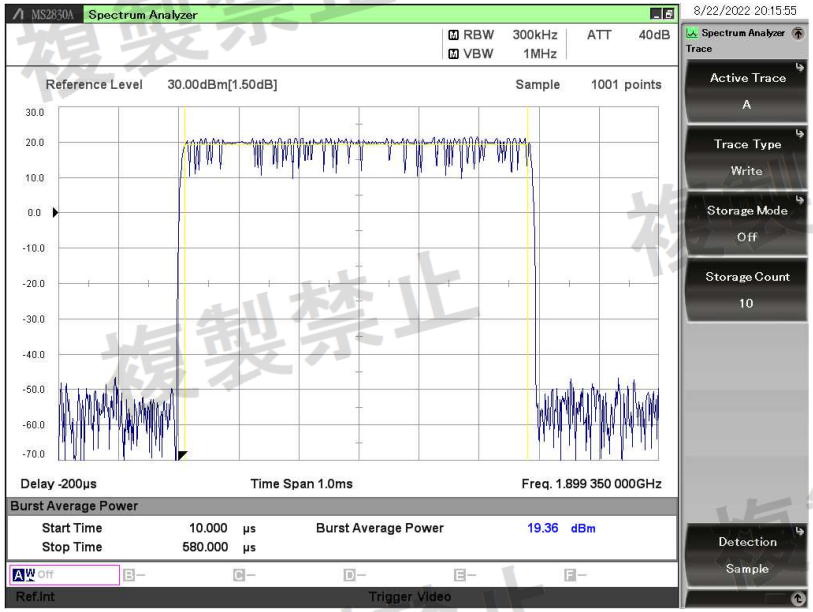
狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の不要発射では Segment5 の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **201.84nW**(MAX) @1896.392MHz である。
狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の不要発射では Segment2 の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **504.66nW**(MAX) @1891.650MHz である。

測定波形(常圧 3.7V)

③ｽﾌﾟﾘｱｽ発射又は不要発射の強度

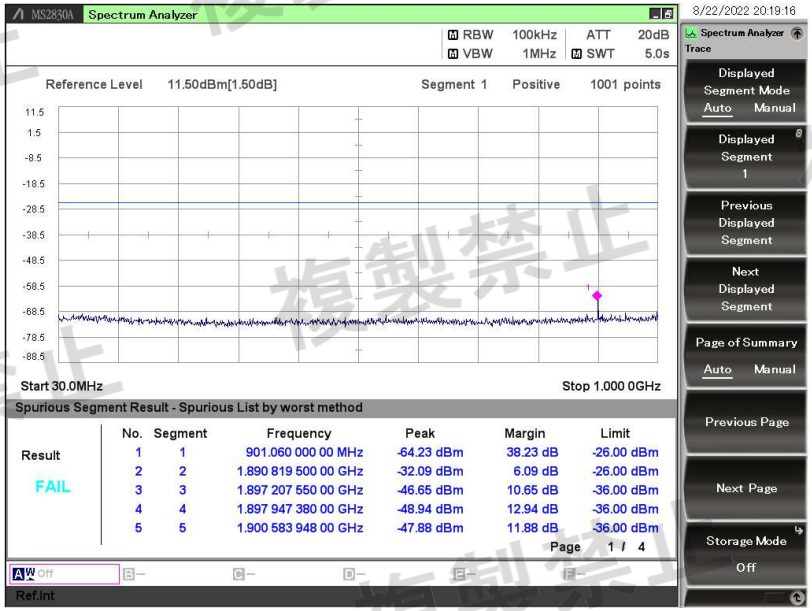
試験周波数：1899.35 MHz(Mch)

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)

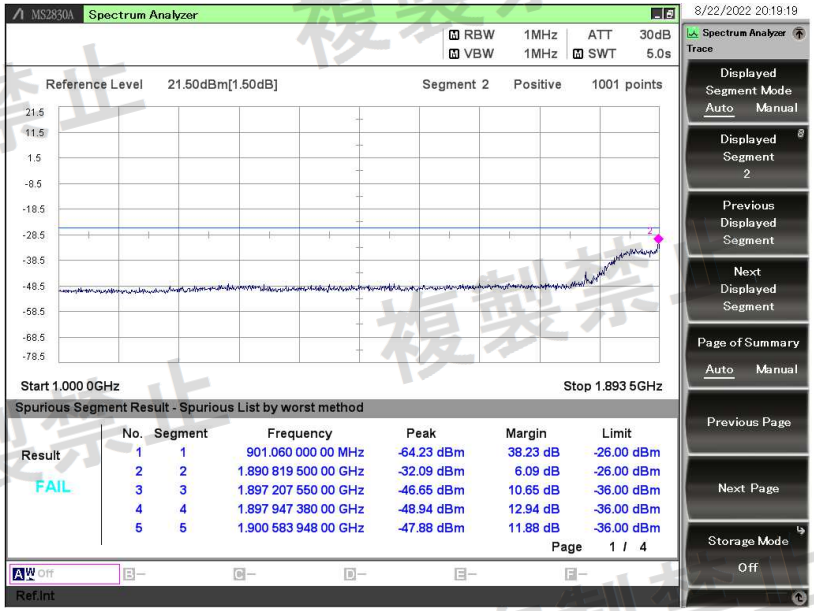


・不要発射の探索結果

<不要発射 Segment1：30.000MHz～1.000GHz>

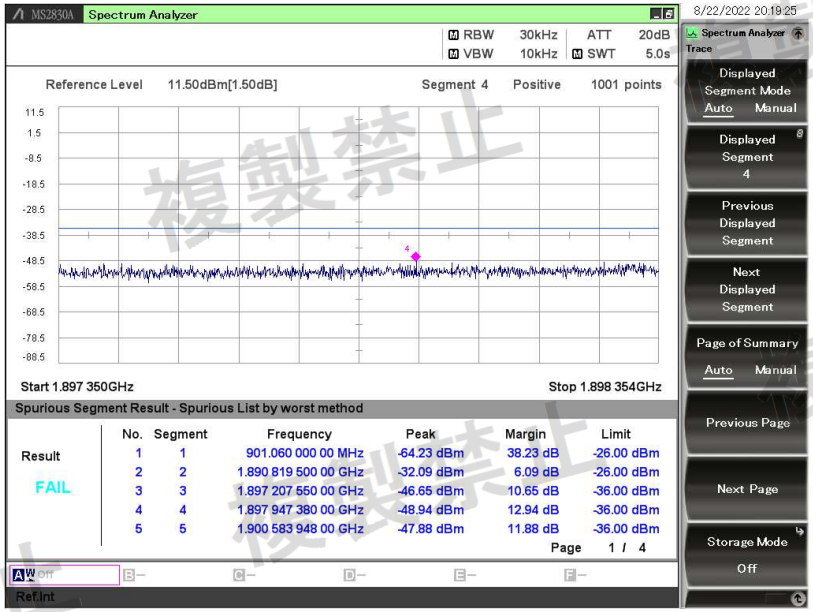


<不要発射 Segment2：1.000GHz～1.893 50GHz>

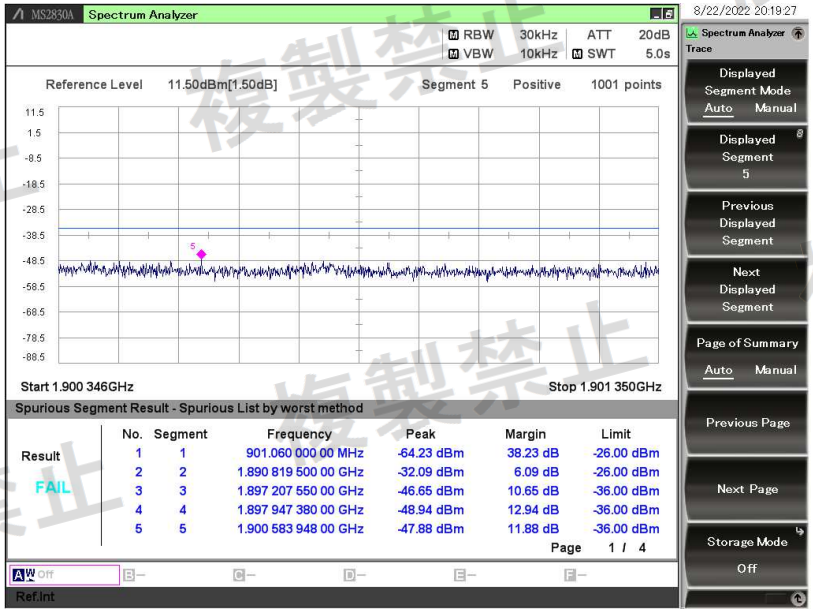


<不要発射 Segment3：1.893 50GHz～1.897 35GHz>

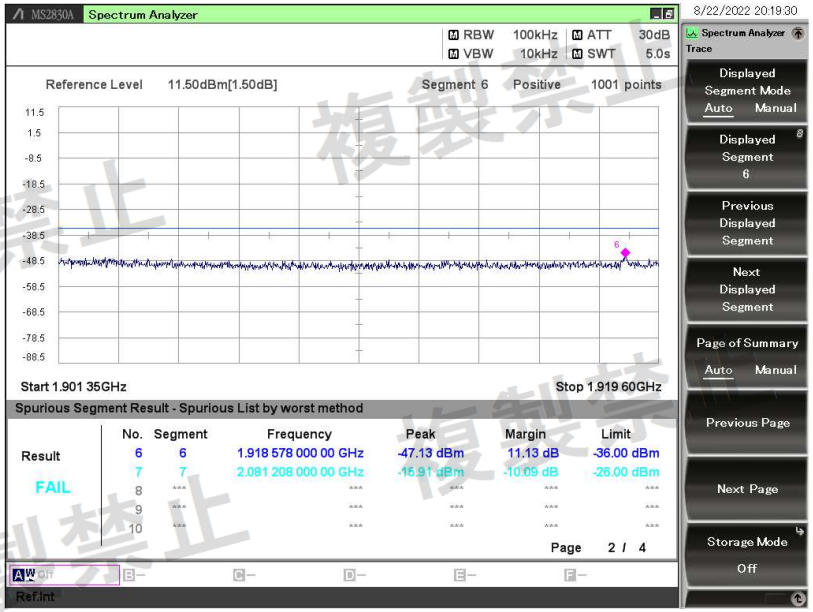
<不要発射 Segment4：1.897 350GHz～1.898 354GHz>



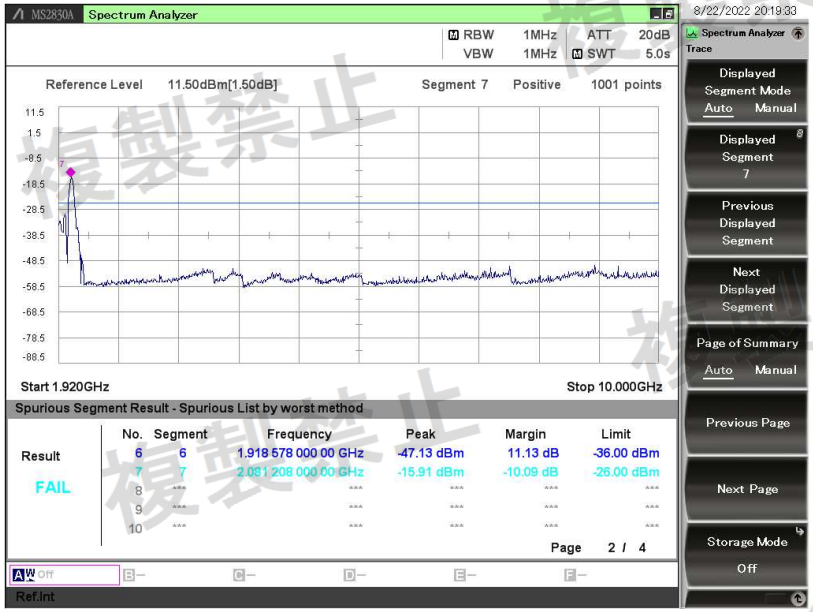
<不要発射 Segment5：1.900 346GHz～1.901 350GHz>



<不要発射 Segment6：1.901 35GHz～1.919 60GHz>



<不要発射 Segment7：1.919 60GHz～10.000GHz>



※Segment7 のｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの捜索範囲表示が 1.920GHz～10.000GHz となっているが、
これはｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの仕様であり、実際は捜索範囲を 1.919 60GHz～10.000GHz に設定して測定している。

※探索結果の Result が FAIL 表示となっているが、これは探索結果が技術基準の許容値を超えているかの Result であり、
探索結果で許容値を超えた領域に関しては、特性試験方法に従った詳細測定を行っている。
・不要発射 Segment7：狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の(A)を参照
技術基準の許容値を満足している為、問題なし。

<狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内>

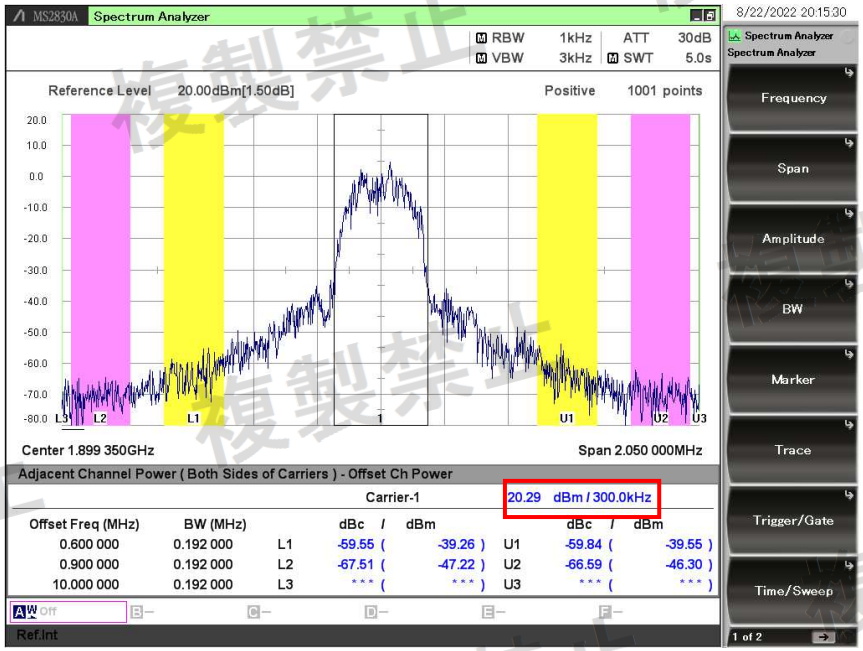
(A)Segment 3

搬送波-2MHz を除く、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内で探索した不要発射が、-46.65dBm@1897.207MHz (Segment 3)であり、
規格+10dB 以上のﾏｰｼﾞﾝがある為、捜索結果に+10dB して測定結果とする。
-46.65dBm+10dB=-36.65dBm=216.27nW

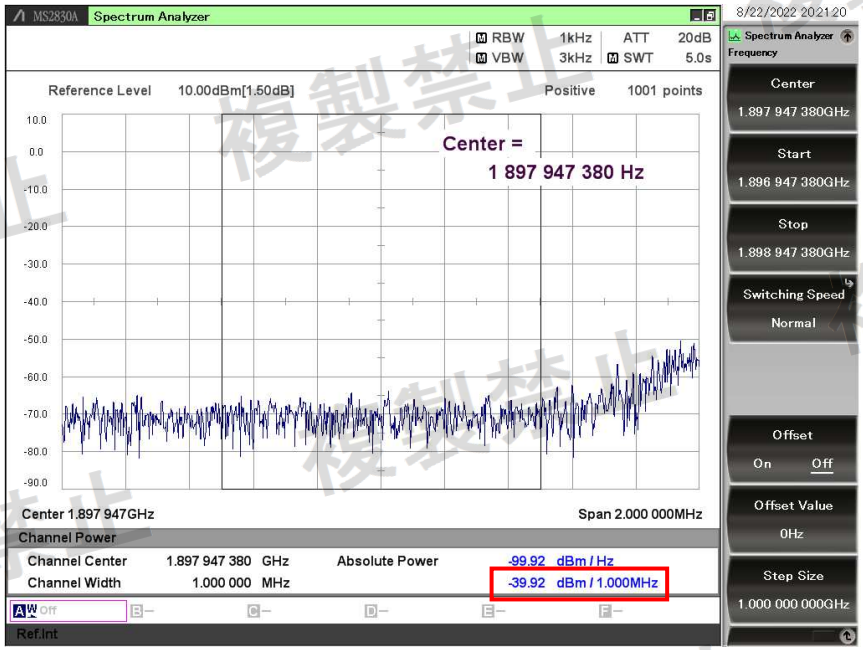
(B)Segment 4

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の搬送波-996kHz を除く、搬送波-2MHz で探索した不要発射が-48.94dBm@1897.947MHz であり(Segment 4)、
規格+15dB 以上のﾏｰｼﾞﾝを持たない為、詳細測定(隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)

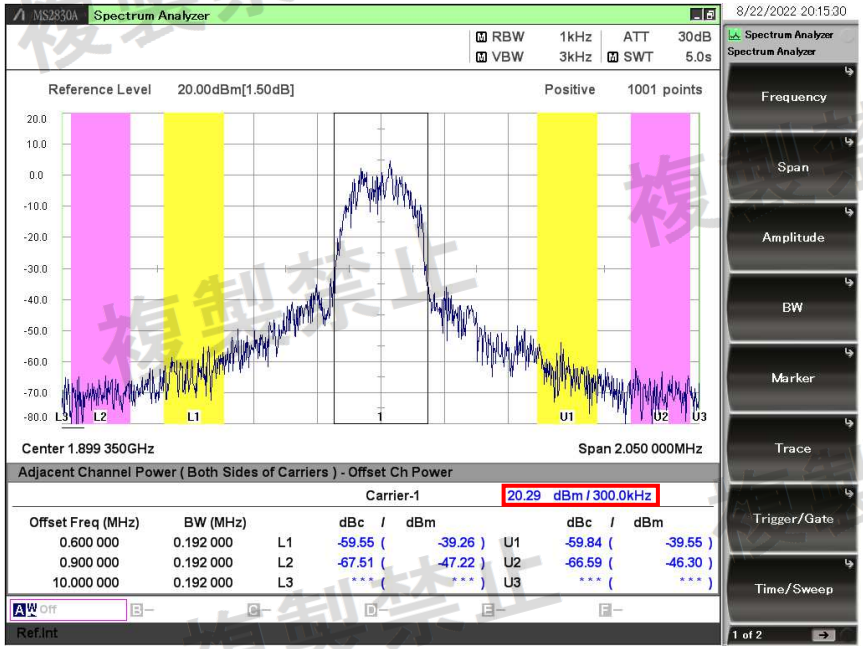


よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、20.29dBm-(-39.92dBm)=60.21dBc
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
9.90dBm(=9.77mW)+9dB-60.21dBc = -41.31dBm = 73.96nW

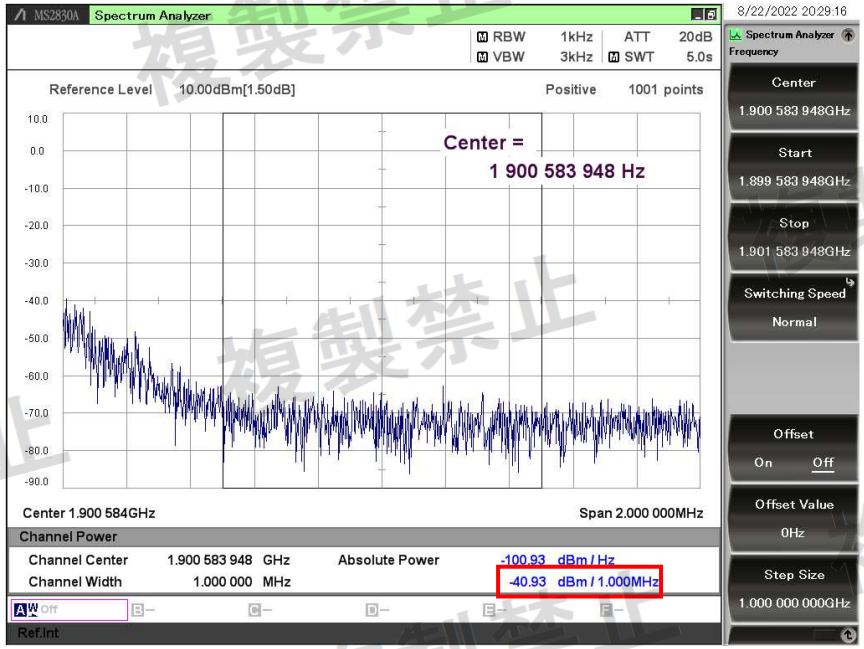
(C)Segment 5

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の搬送波+996kHz を除く、搬送波+2MHz で探索した不要発射が-47.88dBm@1900.583MHz であり(Segment 5)、
規格+15dB 以上のﾏｰｼﾞﾝを持たない為、詳細測定(隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、20.29dBm-(-40.93dBm)=61.22dBc
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
9.90dBm(=9.77mW)+9dB-61.22dBc = -42.32dBm = 58.61nW

(D)Segment 6

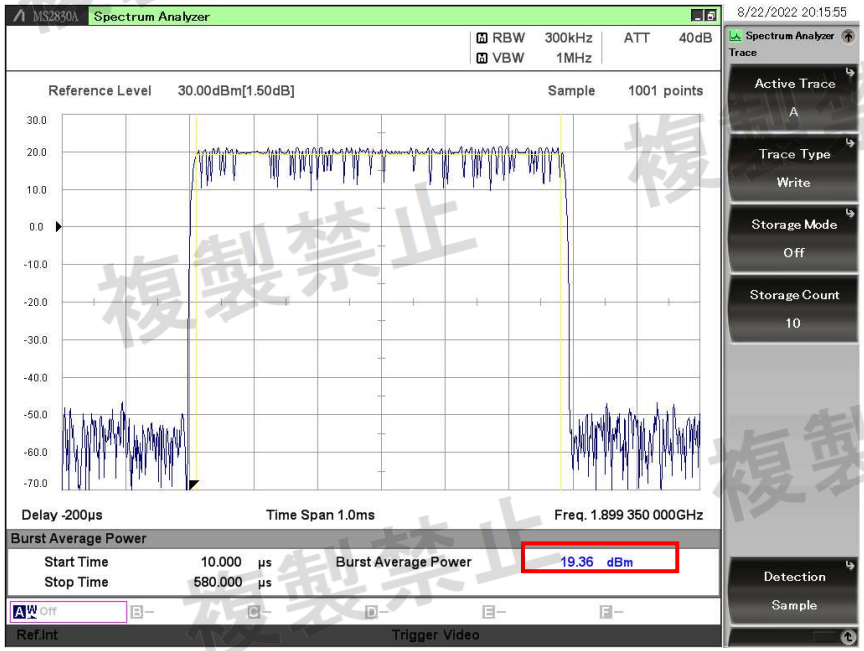
搬送波+2MHz を除く、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内で探索した不要発射が、＋側で-47.13dBm@1918.578MHz (Segment 6)であり、
規格+10dB 以上のﾏｰｼﾞﾝがある為、捜索結果に+10dB して測定結果とする。
-47.13dBm+10dB=-37.13dBm=193.64nW

<狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外>

(A)Segment 7

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の 1919.6MHz を超え 10GHz 以下で探索した不要発射が-15.91dBm@2081.208MHz であり(Segment7)、探索結果が規格値を超える為、詳細測定(ｾﾞﾛｽﾊﾟﾝ)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)



・不要発射(掃引周波数幅：0Hz)

よって、搬送波(掃引周波数幅：0Hz)と不要発射の電力比は、19.36dBm-(-48.51dBm)=67.87dBc

予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

9.90dBm(=9.77mW)+9dB-67.87dBc = -48.97dBm = 12.68nW

(B) Segment 7 を除く、狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外

Segment 7 を除く、狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外で一番ﾏｰｼﾞﾝが少ないｾｸﾞﾒﾝﾄは Segment2 (1890.819MHz)である。

捜索結果が規格値以内の為、捜索結果を測定結果とする。

-32.09dBm=618.02nW

●結論

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の不要発射では Segment3 の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **216.27nW**(MAX) @1897.207MHz である。

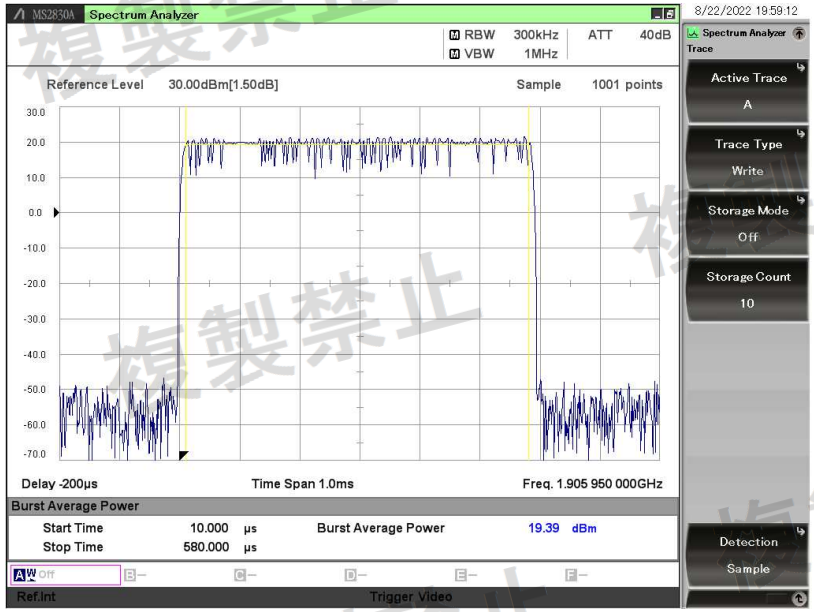
狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の不要発射はでは Segment2 の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **618.02nW**(MAX) @1890.819MHz である。

測定波形(常圧 3.7V)

③ｽﾌﾟﾘｱｽ発射又は不要発射の強度

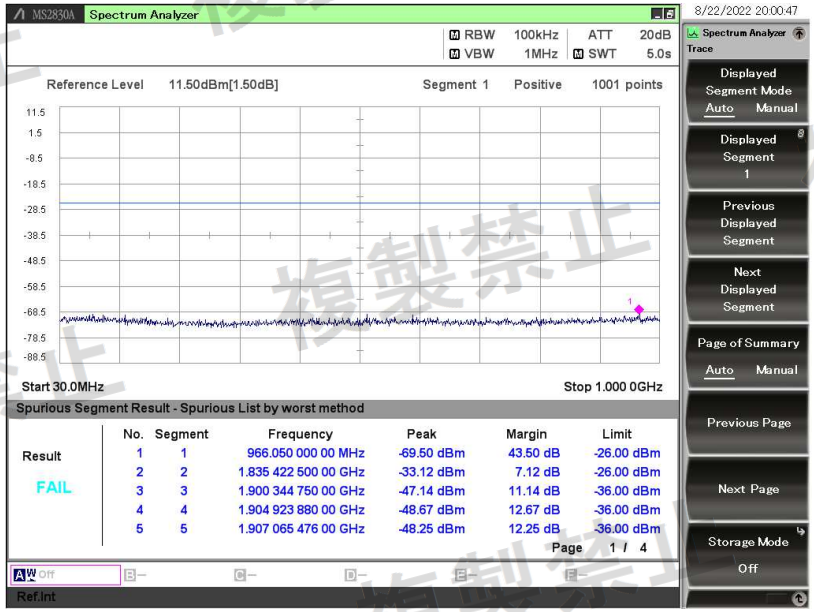
試験周波数：1905.95 MHz(Hch)

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)

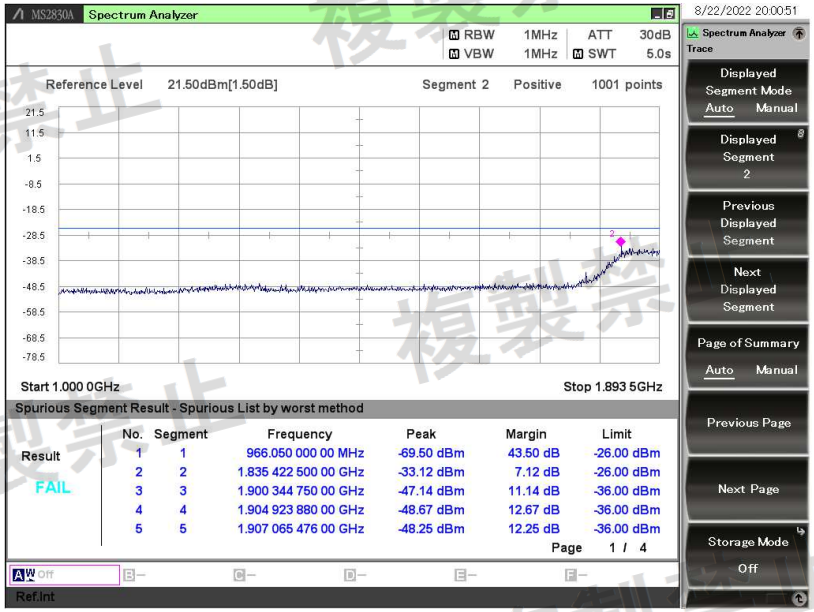


・不要発射の探索結果

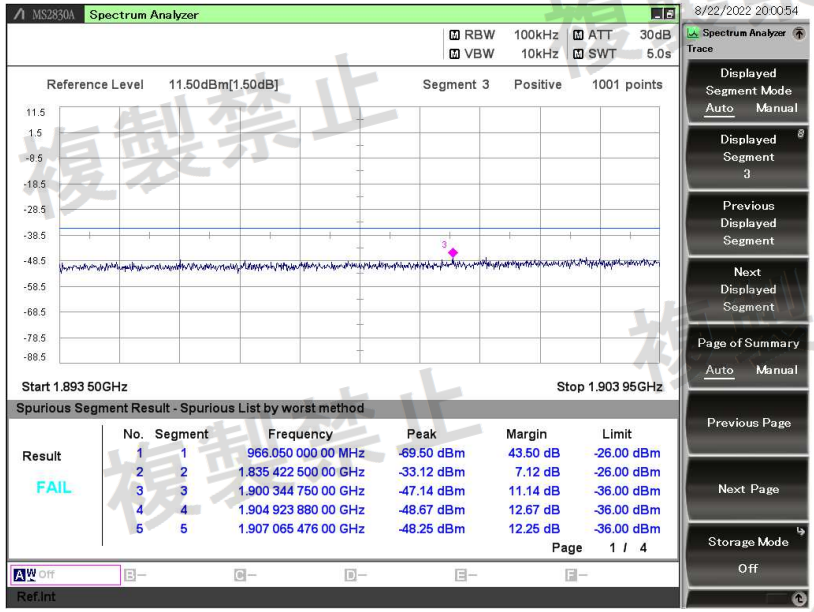
<不要発射 Segment1：30.00MHz～1.000GHz>



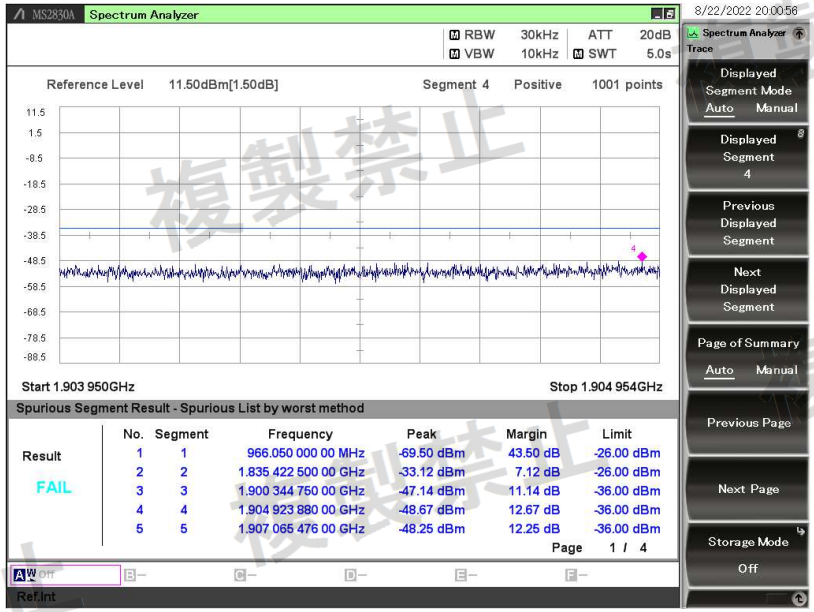
<不要発射 Segment2：1.000GHz～1.893 50GHz>



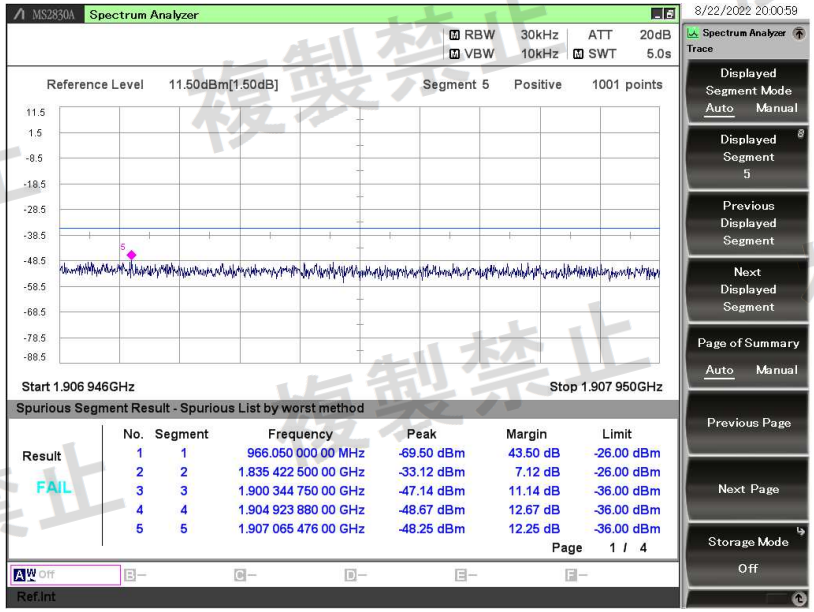
<不要発射 Segment3：1.893 50GHz～1903 95GHz>



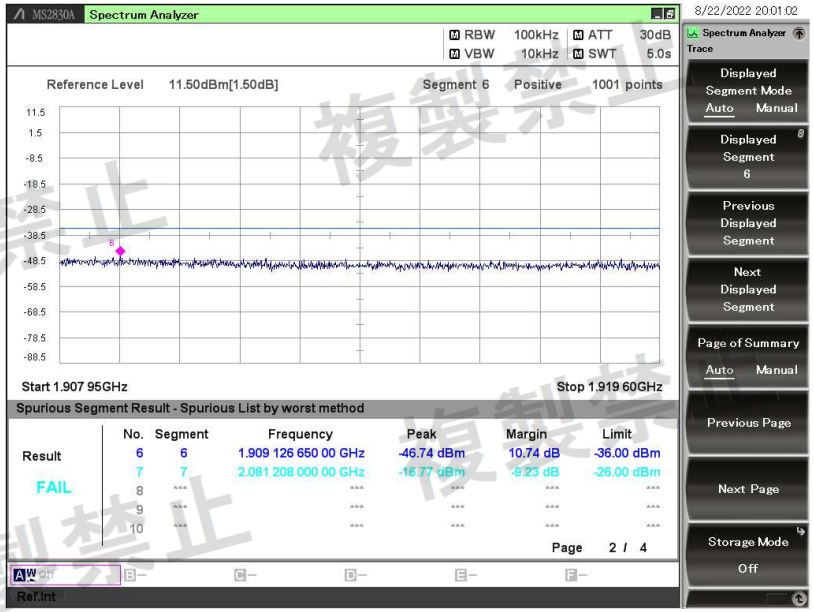
<不要発射 Segment4：1.903 950GHz～1904 954GHz>



<不要発射 Segment5：1.906 946GHz～1.907 950GHz>

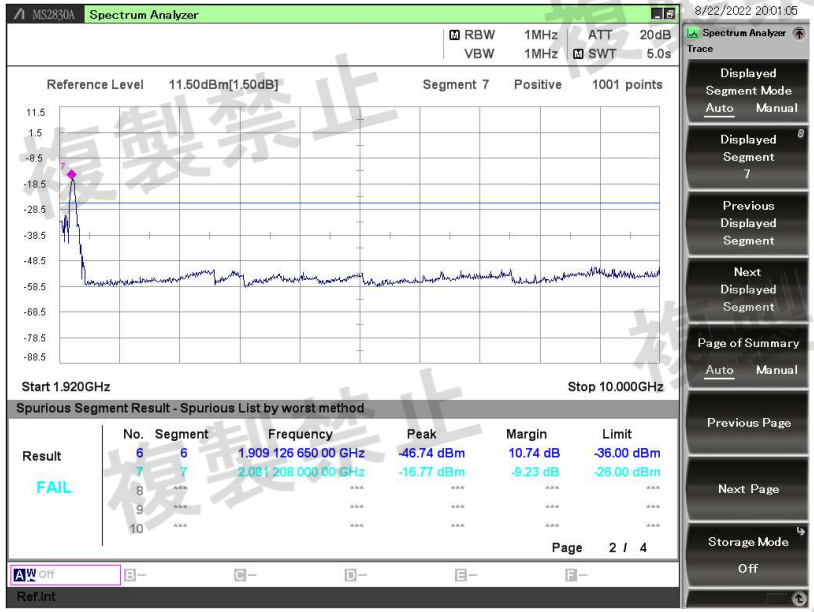


<不要発射 Segment6：1.907 95GHz～1.919 60GHz>



複製禁止

<不要発射 Segment7：1.919 60GHz～10.000GHz>



※Segment7 のｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの捜索範囲表示が 1.920GHz～10.000GHz となっているが、
これはｽﾍﾟｸﾄﾗﾑｱﾅﾗｲｻﾞの仕様であり、実際は捜索範囲を 1.919 60GHz～10.000GHz に設定して測定している。

※探索結果の Result が FAIL 表示となっているが、これは探索結果が技術基準の許容値を超えているかの Result であり、
探索結果で許容値を超えた領域に関しては、特性試験方法に従った詳細測定を行っている。
・不要発射 Segment7：狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の(A)を参照
技術基準の許容値を満足している為、問題なし。

<狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内>

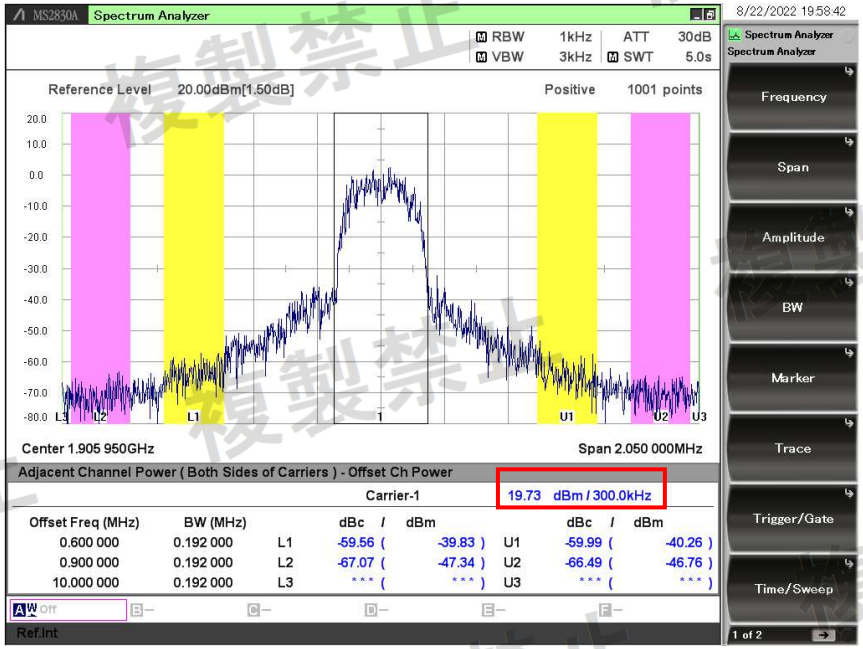
(A)Segment 3

搬送波-2MHz を除く、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内で探索した不要発射が-47.14dBm@1900.344MHz (Segment 3)であり、
規格+10dB 以上のﾏｰｼﾞﾝがある為、捜索結果に+10dB して測定結果とする。
-47.14dBm+10dB=-37.14dBm=193.20nW

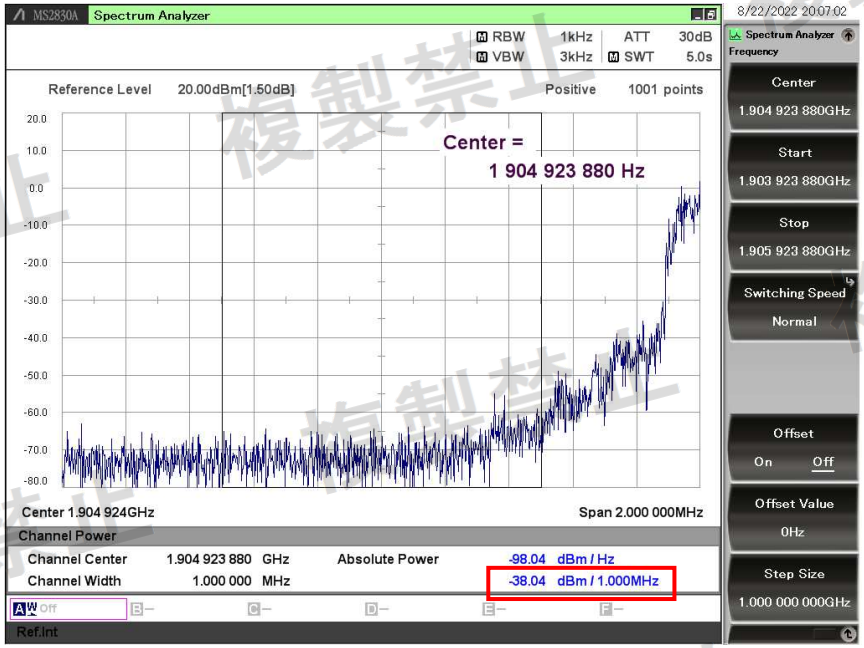
(B)Segment 4

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の搬送波-996kHz を除く、搬送波-2MHz で探索した不要発射が-48.67dBm@1904.923MHz であり(Segment 4)、
規格+15dB 以上のﾏｰｼﾞﾝを持たない為、詳細測定(隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)

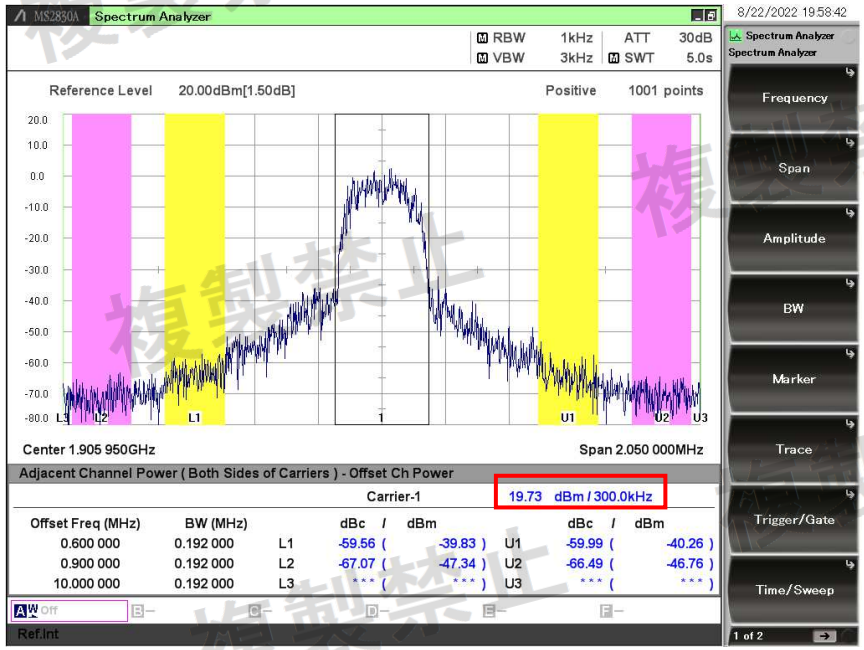


よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、19.73dBm-(-38.04dBm)=57.77dBc
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
9.93dBm(=9.84mW)+9dB -57.77dBc = -38.84dBm = 130.62nW

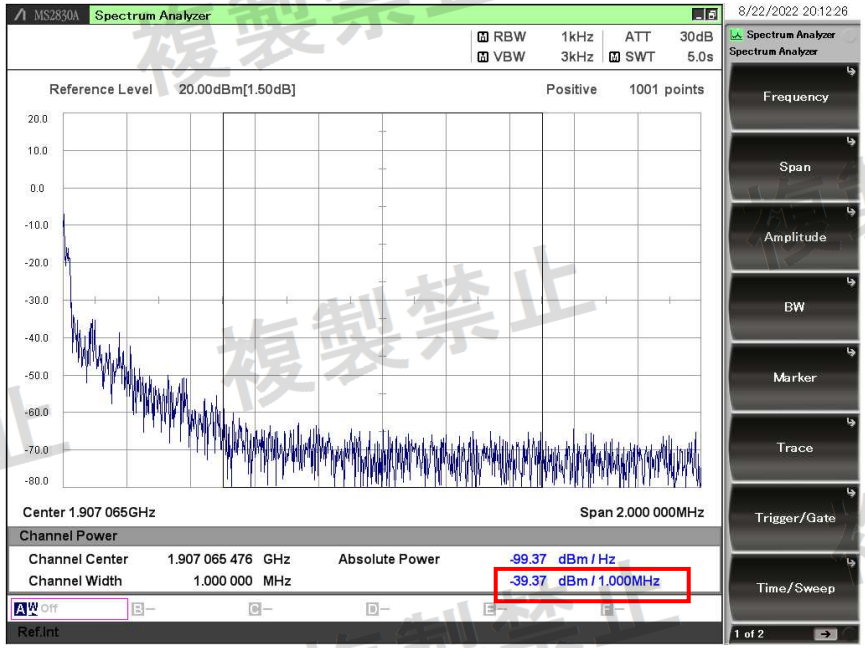
(C)Segment 5

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の搬送波+996kHz を除く、搬送波+2MHz で探索した不要発射が-48.25dBm@1907.065MHz であり(Segment 5)、
規格+15dB 以上のﾏｰｼﾞﾝを持たない為、詳細測定(隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、19.73dBm-(-39.37dBm)=59.10dBc
予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。
9.93dBm(=9.84mW)+9dB -59.10dBc = -40.17dBm = 96.16nW

(D)Segment 6

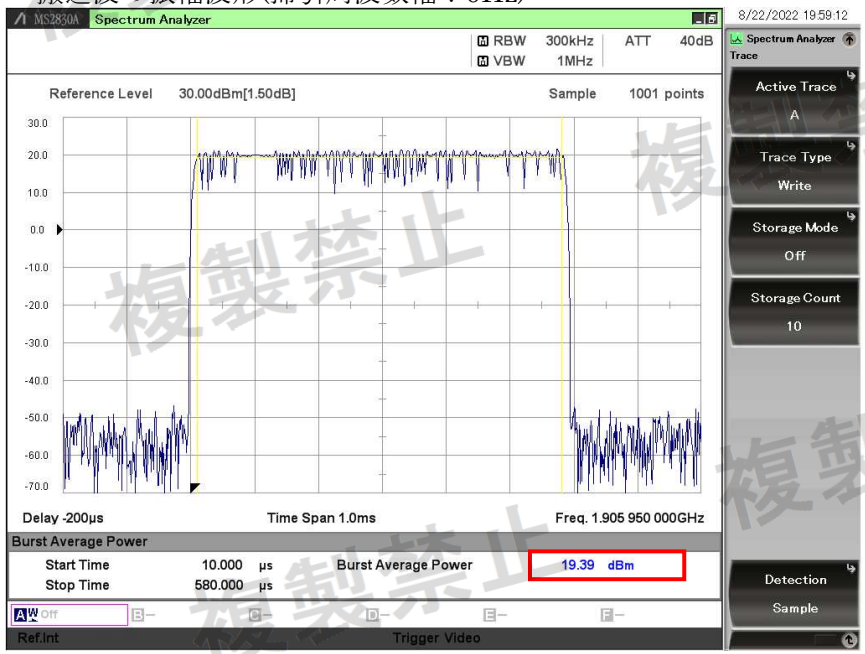
搬送波+2MHz を除く、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内で探索した不要発射が、＋側で-46.74dBm@1909.126MHz (Segment 6)であり、
規格+10dB 以上のﾏｰｼﾞﾝがある為、捜索結果に+10dB して測定結果とする。
-46.74dBm+10dB=-36.74dBm=211.84nW

<狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外>

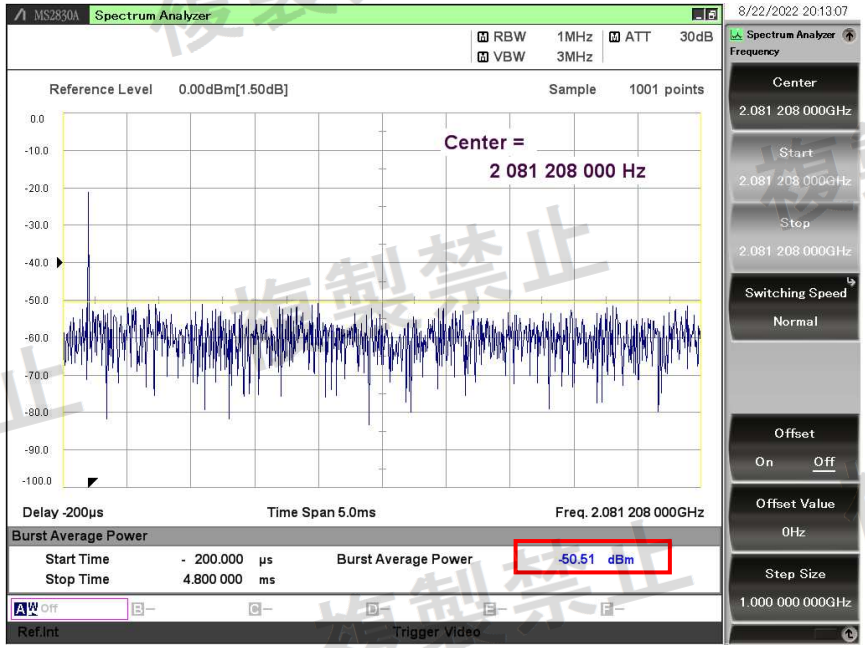
(A)Segment 7

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の 1919.6MHz を超え 10GHz 以下で探索した不要発射が-16.77dBm@2081.208MHz であり(Segment7)、探索結果が規格値を超える為、詳細測定(ｾﾞﾛｽﾊﾟﾝ)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)



・不要発射(掃引周波数幅：0Hz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：0Hz)と不要発射の電力比は、19.39dBm-(-50.51dBm)=69.90dBc

予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

9.93dBm(=9.84mW)+9dB -69.90dBc = -50.97dBm = 8.00nW

(B) Segment 7 を除く、狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外

Segment 7 を除く、狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外で一番ﾏｰｼﾞﾝが少ないｾｸﾞﾒﾝﾄは Segment2 (1835.422MHz)である。

捜索結果が規格値以内の為、捜索結果を測定結果とする。

-33.12dBm=487.53nW

●結論

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域内の不要発射では Segment6 の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **211.84nW**(MAX) @1909.126MHz である。

狭帯域ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺｰﾄﾞﾚｽ帯域外の不要発射はでは Segment2 の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **487.53nW**(MAX) @1835.422MHz である。